

## 編集後記

時の流れは早いもので、2005年も4分の1の歳月が過ぎ、一日毎に自然の生命が輝きを増し始める春の季節を迎えました。この頃の時季になると、多くの日本人は列島の桜前線が気になりだします。自分の所はいつごろになると桜は咲くのだろうか、はたまた、故郷のあそこの桜はどうだろうかなど思いを廻らします。こうして毎年桜の花を見るたびに、過ぎ去った日々が思い起こされてきます。

自然は人の心を和やかにしてくれることと反面、時には牙をむくがごとく人間に襲いかかってくるのが現実です。2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震と津波で、30万人近い尊い生命が失われました。

地球上を我がものとし、科学万能と信じてやまない人類のおごりに対する自然からの警鐘なのでしょうか。自然とうまく共生することを選択していくことこそ人類の末永い繁栄につながる道があるように想えてなりません。

スマトラ沖地震での深い悲しみが癒えない時期の2月16日に、地球温暖化防止を目的とする「京都議定書」が発効し、世界各国が一致協力して温室効果ガスの排出削減に取り組むことになりました。人類は節度を保ちつつ地球にやさしく接する姿勢こそ、共に穏やかな時空を達成できるのではないのでしょうか。

(藤崎、小沼)